

講義名	心理療法論		
科目区分	学部フリーゾーン		
担当教員	銅直 優子		
開講期・曜日・時限	後期 木曜日 2時限		
	2017年度 人間社会学部 人間健康学科 / 2017年度 人間社会学部 観光学科 / 2017年度 人間社会学部 人間社会学科 / 2017年度 経済学部 経済情報学科 / 2017年度 経済学部 経済学科 / 2017年度 商学部 マーケティング学科 / 2017年度 商学部 経営学科 / 2016年度 人間社会学部 人間健康学科 / 2016年度 人間社会学部 観光学科 / 2016年度 人間社会学部 人間社会学科 / 2016年度 経済学部 経済情報学科 / 2016年度 経済学部 経済学科 /		
履修開始年次	3年生	単位数	2
		講義コード	42102

主題と概要

心理療法とは、個人の心理的な悩み、症状などを解決するために、セラピスト（心理療法行為を行う人）とクライアント（心理療法を受ける人）の間で、言葉による表現、感情の把握、意識されている体験のやり取りの過程を行って行くものである。ここで行われるやり取りにはセラピストの背景にある学派が反映される。また、同じ学派であっても、そこでやり取りされることには、いろいろな方法（技法）が存在する。

心理療法には、さまざまな学派があり、各学派には「人間をどのように捉えていくか」という人間観、心理療法をどのように捉えていくのかという心理療法観、そして心理治療を受ける人にどのように接してゆくのかという技法論がある。

この講座では、心理療法とは何か？ということを考えていくことを始めとし、代表的な学派の創始者について紹介していくとともに、その根底にある人間観について解説していく。また、心理療法の対象となる人達の中には、いろいろな病理症状に苦しんでいる人がいる場合も多い。その病理について解説していく。そして、代表的な心理療法の技法について紹介・解説を行っていく。

到達目標

人間の精神構造・精神機能について理解できることができるようになる。
 どのような精神病理があるかが理解できるようになる。
 代表的な心理療法について理解できるようになる。
 ある心理技法を使った治療計画を立てることができるようになる。

提出課題

授業で取り組んだ課題について提出してもらう場合がある。
 課題提出や内容については授業内に説明する。

評価の基準

中間テストと授業中の課題（40％）
 定期試験（60％）

履修にあたっての注意・助言他

<他の講座履修について>
 ・本講座の履修前に臨床心理学の講座を履修することをお勧めする。
 <グループワークについて>
 ・授業の後半には治療計画を立てるためのグループワークがあるため、積極的に参加する姿勢が必要となる。
 <マナーについて>
 ・他の人の邪魔（私語、携帯電話など）をしないこと。
 ・注意を複数回受けたものは退場してもらう。
 ・出欠や遅刻に関しては、厳密にカウントしていく。
 （出席が不足した者については定期試験の受験資格を失う）

教科書

・特になし。必要に応じて、プリント資料を配布する予定。・

プリント資料及び参考文献

- ・『フロイト精神分析入門』小此木啓吾・馬場謙一著 有斐閣新書
- ・『ロジャースクライエント中心療法』佐治守夫・飯長喜一郎 有斐閣新書
- ・『カウンセリングとは何か 理論編』池田 久剛著 ナカニシヤ出版
- ・『カウンセリングとは何か 実践編』池田 久剛著 ナカニシヤ出版
- ・『療法ハンドブック』乾 吉佑 他編 創元社

授業計画

- 1心理療法の基礎知識
 - 2精神病理への理解 1（精神病理とは何か、神経発達障害など）
 - 3精神病理への理解 2（統合失調症、抑うつ障害など）
 - 4精神病理への理解 3（不安障害群など）
 - 5精神病理への理解 4（強迫症など）
 - 6心の動き（意識・無意識）
 - 7人格論と発達論
 - 8心理療法各論 1（精神分析療法）
 - 9心理療法各論 2（クライエント中心療法）
 - 10心理療法各論 3（行動療法-）
 - 11心理療法各論 4（行動療法-）
 - 12心理療法各論 5（行動療法-）
 - 13心理療法各論 6（認知療法）
 - 14心理療法各論 7（遊戯療法、芸術療法、箱庭療法など）
 - 15心理療法各論の総括
- 受講者の理解度・興味などで多少の変更が生じる場合もある。

予習・復習

予習は、授業内で取り上げるテーマについて、参考文献に目を通して、講義に臨むこと。特にキーワードと調べ、それがどのような意味であるのかを理解しておくことが重要である。
 復習は、授業内で説明された事について、更に理解を深めるために、参考文献に目を通し、ノートを作成し、次の授業の時に、質問することが望ましい。心理療法各論では、実際に自分で取り組める治療技法があるため、それについては、授業内での指示に従って、各自が記録し、取り組んでみる事が重要である。また、その記録については提出し、添削指導

備考